

第7回 幸町地区学校適正配置地元代表協議会

1 日 時 平成21年3月26日(木) 19時00分～21時00分

2 場 所 ガーデントウン管理センター

3 出席者

(1) 委 員

＊欠席委員：齋藤委員、長田委員

＊代理出席：川島委員の代理として高村氏(幸町第一小学校PTA役員)が出席
篠木委員の代理として田口氏(幸町第二中学校PTA副会長)が出席
西重委員の代理として朝倉氏(幸町第三小学校評議員)が出席

(2) 事務局

古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補、齋藤主事

(3) 傍聴者 2名

4 議題

(1) 幸町地区の適正配置の方向性について

5 会議資料

(1) 資料1 幸町地区の適正配置【参考シミュレーション】(平成21年1月版)

(2) 資料2 幸町地区学区図

6 議事の概要 幸町地区の適正配置の方向性について

7 発言要旨

幸町地区の適正配置の方向性について

〈益田議長〉

前回の協議会では、幸町1丁目・幸町2丁目それぞれの地域で行われた懇談会の状況報告と教育委員会から示された統合に伴う非常勤教員の加配等の方針を踏まえて、幸町2丁目としての意見をまとめた後、幸町地区全体の方向性を話し合っていくこととした。そのため、幸町2丁目では今回の協議会を開催する前に、再度懇談会を行うことになった。

そこでまず、幸町2丁目(2回目)の懇談会の内容について、報告をお願いします。

〈長岡会長〉(幸町2丁目〈幸町第一中学校区〉)

幸町2丁目の関係者に呼びかけて、2月28日、19時から懇談会を行った。委員ではない人にも呼びかけて参加していただいた。結論からいうと、2丁目としての意見はまとまらなかった。その理由の一つとして、保護者の意見をまとめることができていないことがある。「そろそろ結論を絞り込み、方向性を決めていくべきではないか」という意見もあったが、幸町第二小の関係者が参加しておらず、意見を聞けなかったことから、結論が出なかったということもある。

〈益田議長〉

幸町2丁目からの報告によれば、まだ具体的な意見はまとまっていないとのことである。本日は、今年度最後の協議会となるので、今後の進め方も含めて、各委員から順番にご意見をいただきたいと思います。

〈布施委員〉

まず、PTAの会議で出た意見から報告する。PTAの会議では、統合にあたり保護者が最も不安に思うことについて、また、教育環境をどうよくしたらいいかということ話を合ってきた。保護者からは、「統合した場合、先生一人当たりの子どもの数が増えることが心配である。目の行き届く教育をしてほしい」という意見があり、教育委員会より、統合した際に、小学校では31人以上の学級が生じた学年に1人、中学校では学級の人数に関わらず、学校全体に2人の非常勤教員を配置するとの回答があった。この回答については、保護者の声を真摯に受け止めて考えてくださったのだなと感じたし、保護者も統合に対して前向きな検討ができるのではないかと思います、とてもうれしく感じた。ただ、統合校に対する激変緩和策として講じていただきたい要望が（可能かどうかは別として）他にもあがっている。例えば、スクールカウンセラーの配置よりも、日々の様子を見てくれる養護教諭を増員していただけないか等である。このようなことを、3月初めのPTAの理事会で話し合ったが、「年度が替わり、PTAの役員も入れ替わる時期であり、十分な協議は難しい」という意見だった。新年度のPTAの体制が整ってから、幸町第一中としての意見をまとめたいと考えている。あまり拙速に進めてほしくないと思う。

〈篠木委員代理田口氏〉

保護者にアンケートをとったところ、現時点で、中学生の保護者は適正配置への実感はないようである。今後、役員改選が終わったら保護者の意向を細かく聞いていきたい。

〈細谷委員〉

統合する方向で話し合いが進められているので、懇談会の際に、統合について賛成か反対か質問したが、「PTAとしてはもう少し話し合いたい」ということだった。自分の子どもは現在、学校には通学していないが、地元の代表としては、話し合いをもう少し前に進めることはできないかと思っている。教育委員会から提示されているシミュレーションに対しても、前向きに考えていきたいと思っている。

〈巖倉委員〉

懇談会では、地域の方から「統合するならするで決めて、次の問題に進んでいった方が良くはないか」という意見もあった。「そろそろ、統合校の場所や統合によるメリットを活かせる方法等を話し合いたい」という意見もあった。じっくりと話し合っていくことも大切だし、統合するかしないかを今決めてしまうのは早いという考えもあるが、統合なら統合の方向で話し合っていく、その中で、メリットがデメリットより小さければ、統合しないという結論になることもあると考えて話し合いを進めていったら良いのではないかと。話し合っていく中で、気持ちも変わっていくだろうし、学校の位置や生徒数の問題等もいろいろ出てくるだろう。2丁目は今後大きく変わっていく。もし、賃貸住宅が減れば、子どもも減るだろう。私の意見としては、「統合をやる」という気持ちで話し合い、話し合っていく中で、「統合のメリットが出ないのであれば、統合しないという結論もある」という前提で、統合校の場所等を含め、一歩進めた話し合いをしていきたい。

〈西重委員代理朝倉氏〉

学校評議員からは、特に新しい意見等は出ていない。個人的には、現在700名を超える大規模校である幸町第三小学校区に入っている保護者の意見のように、「適正配置が行われた際には、大規模校にもメリットがあるように、先生方の目が行き届くような学校にしてほしい」と思う。大規模校であっても、教頭1人、養護教諭も1人しか配置できないという状況を何とかしていただきたい。

〈山内委員〉

学校体育施設開放委員会での会議は年6回あり、そこで協議会の報告等をしているが、意見としては、「統合は、第一に学校の問題なのだから、地域は、保護者が決めたことに従わなければならないのではないか」というものである。「学校だけでなく地域にも関わる重要な問題だから積極的に考えよう」という意識はなかなかないし、意見も特に出ない。地域の問題と統合とは切り離しては考えられないことはわかっているが、決まったことに従うという考えである。学校評議員の会議も年に何回もなく、PTAの方たちと接触して話をする機会もないので、学校と一緒に考えていくことは容易ではない。幸町2丁目の懇談会ではPTAの方向性がはっきりしていないというお話だった。統合の鍵となるPTAの考えがまとまっていないとどうにもならないのではないだろうか。PTAとしての方向性が決まれば、学校の統合と地域の問題とを結びつけて考えていきたい。

〈仲山委員〉

今まで、なるべく発言は控えていた。前回、前々回会と協議会を欠席してしまったが、そろそろ、方向性を決めるべきではないか。方向性を決めないと、保護者も意見を言えないし、言にくいだろう。ただ現時点では（時期的に）、保護者からの意見を集約して、協議会に持ってくるのは難しいだろう。統合するならすると決めて話し合った方が良いと思う。来年度は、次男が入学して自分も保護者になるので、PTAにも意見を出したいと思う。そのためにも、そろそろ方向性を打ち出していきたいと思う。

〈稲田委員〉

幸町第四小は小規模校で先生も少ないが、今よりも教育環境が悪くならないようにしていただきたい。そのためには、スクールカウンセラーの配置ではなく、養護教諭を増やして、カウンセリング等にあたれるようにしてほしい。

〈川島委員代理高村氏〉

幸町第一小は、現在、保護者へ情報を提供しているところで、意見の集約はまだできていない。新年度に役員も替わるので、新しい役員が決まってから、幸町第一小としての意見を決めていきたい。

〈阿南委員〉

2月末の懇談会でフリートーキングを行ったのだが、学校の規模よりも、先生の質が問題となった。先生が増えても、質がよくなければ意味がないだろう。小学校高学年や中学校の理数教科では、専門知識を持った教員が指導しないといけないのではないかと。統合の問題もあるが、国際的には遅れがちになっている日本において、教員の質の問題を優先しなければ意味がないと思う。高学年になると、塾通いをする子どもが多くなるが、塾に通わなくてすむような教育を行うべきである。

〈松田委員〉

今まで話し合ってきて感じたことは、統合の問題は、近年の財政上や少子化の問題がある中で出てきた問題だろうということである。また、幸町1丁目・2丁目と一緒にして考える形での統合は難しいだろうから、それぞれの地区で統合を話し合う方が良いだろう。むしろ、はっきりと分けた方が話し合いがしやすい。「幸町第一小・第二小・第四小を統合する」ということが大きな方向だと思う。統合に対して、自治会にはしっかりとした考えがあるが、PTAは、まだはっきりしていないようなので、もう少しはっきりとした考えをまとめていただきたい。今までに協議会を何回も開催してきたのに、まだ結論が出ない。期限を決めて、はっきりとした考えをうかがえると良いと思う。

〈外山委員〉

学校に行っても、非常に活気がないという状況である。私個人の考えとして、統合は進める必要があるのではないと思う。しかし、保護者の声が聞こえてこないし、PTAがどの程度動いているのかもわからないし、保護者と教育委員会との連携もよく見えない。仮に統合しても、PTAがもっと力を発揮しないと、学校はよくなるのではないか。学校と地域が密接なつながりを持つことは必要だと思うので、地域と共に考えて統合を進めていくのが良いのではないか。

〈木幡委員〉

私は青少年育成委員会の代表としてこの協議会に出席しているが、幸町第一中のPTA会長でもあるので、その立場からも発言させていただく。適正配置は、第一次の取り組みから長い期間話し合っており、未だに結論が出ないのは、「統合して本当に学校教育がよくなるのか」という不安が拭えないからだろう。そういった意味では、保護者の考えは終始一貫している。それがようやく、前回の協議会で、教育委員会から統合校へは非常勤教員の加配をするという提案がされ、統合について前向きに検討できる条件ができた。4月中のPTA役員の改選後、保護者としての意見をまとめていけるだろう。また、幸町2丁目の懇談会の報告等を聞いたが、子どもたちのために話し合ってきているのに、地域住民と保護者の間に、しこりが残るような結論はよくないだろう。地域も保護者も、お互いに歩み寄る努力が必要だと思う。

今後PTAとして結論を出すにあたり、念のために、事務局に確認したい点が四点ある。

一点目に、教育委員会は「統合したほうが良い」という立場だと思うが、協議会では、統合の是非も含めて協議して良いのかということ。

二点目に、仮に統合するとなった場合、具体的に、どの学校をどの場所に残すかについての、意見が一致しなかったとき、教育委員会が強行して決めてしまうようなことはないのかということ。

三点目に、今年の1月7日付け朝日小学生新聞に、統廃合の記事が掲載されており、文部科学省が、統廃合の基準の見直しをするとあった。仮に、国が基準を見直した場合、千葉市の適正規模の基準を見直すことはないと考えて良いかということである。「国が基準を変えたら市も変える」というのでは、いま話し合っている意味がない。

四点目に、小学生新聞には、財務省が教育予算を減らすために適正配置を進めるとあったが、あくまでも、適正配置は子どもたちの教育環境をよりよくするために行うのであり、私たちもそれを第一に考えてきたと理解している。適正配置は、予算が第一ではなく、子どもを第一に考えるという視点で良いのかということ。以上、四点について確認したい。

〈亀田委員〉

先ほどの幸町2丁目の懇談会報告の中で、幸町第二小のPTA関係者が欠席だったので、2丁目としての意見がまとまらなかったと聞いた。本日も幸町第二小の保護者の代表者は欠席である。今までも、適正配置の重要なポイントとなる幸町第二小の代表者が欠席ということがあった。私の意見としては、来年度の協議会に向けて、地元代表協議会の委員を考え直してはどうかと思う。適正配置に一番かかわりが深いのは保護者なのだから、その会長だけではなく、会長と副会長というように、協議会委員を2名にし、必ずそのどちらかが出席するようにした方が良いのではないか。委員が話し合いを欠席しては意味がなく、協議会が会として成立しないような状況では、話し合いが前に進まないのではないかと考えるので、委員についても考え直すべきではないだろうか。

〈益田議長〉

ただいまの委員からの意見に対して、事務局で回答することがあればお願いします。

〈事務局〉

先ず、木幡委員の四点の質問に答えたい。

一点目に、協議会は統合の是非も含めて話し合うのかということだが、教育委員会では少なくとも、現状の幸町地区の学校のかかえる様々な課題については、改善していく必要があると考えている。子どもたちのためにどういった教育環境をつくっていけば良いかという視点で皆様と一緒に考え、統合への合意形成を目指していきたい。

二点目に、統合校の場所を教育委員会が強行して決めてしまうようなことはないのかということだが、学校をいかによくしていくかという視点で考えていけば、答えは自ずと出てくるのではないか。そのための客観的な資料は、今後も事務局で示していきたいと考えている。十分に議論を行っていただき、合理的かつ子どもたちにとって最も良い結論を導き出していただきたい。

三点目に、適正規模の基準を変えることがあるのかということだが、ご承知のとおり千葉市の第2次の適正配置の取り組みは、平成19年10月に策定した「千葉市学校適正配置実施方針」に基づき推進している。千葉市の適正規模の基準は「実施方針」に規定したものであり、この「実施方針」は学識経験者や市民の代表者からなる第2次千葉市学校適正配置検討委員会の中で十分に話し合って出した結論である。したがって、適正規模の基準を変えることは考えていない。

四点目に、適正配置は、予算が第一ではなく、子どもを第一に考えるという視点で良いのかということだが、適正配置は、子どもたちのより良い教育環境の整備と教育の質の充実を目的として取り組んでおり、行財政改革のために取り組んでいるではないということを、委員の皆様にもご理解いただきたい。

次に、委員を2名にして必ずどちらかが出席するようにした方が良いのではないかという、亀田委員の意見についてお答えしたい。来年度の委員の選出にあたっては、発起人と相談して対応していきたいと考えているが、委員選出の基本的な考え方は変わらない。町内自治会連絡協議会会長と青少年育成委員会会長に発起人となっていていただき、PTA・保護者会の会長、小学校区内の自治会代表、各小・中学校の学校評議員の代表に委員となる。PTA・保護者会で会長以外の方が委員となる場合は、会長の推薦をいただき会長と同等の役割を担える方に委員となる。委員となった方は責任を持って協議会に出席する。もちろん、必要に応じて代理人の出席も認めているし、他の地区の協議会では、保護者会の中に、適正配置係のようなポストを作り、協議会委員の他に必ず係が傍聴して対応しているところもある。いずれにしても、ここで話し合われたことを各団体に持ち帰り、意見を集約し、次の協議会に持ち寄ることが基本である。また、そのやり方は、各団体のやりやすい方法をとっていただければと考える。

〈益田議長〉

地域性の問題がありそれぞれの地域で話し合うことになっても、それは、話し合えば解きほぐせることなのではないか。また、国の基準が変わった場合、千葉市の基準が変わることはないのか。

〈事務局〉

子どもたちのことを第一に考えれば、自然と話し合いの着地点は見えてくるのではないか。

千葉市の適正配置の話し合いは、「実施方針」を基に行っている。地域にとって最も適した学校の規模というものがあるだろうし、当面はしばらく現状のまま様子を見るという結論もあるだろうが、千葉市では、「実施方針」が一つの基準であり、これは変わらない。

また、中央教育審議会で話し合われている内容がそのままそのとおりになるかということも、わからないし、そのとおりになったとしても、相当の時間がかかるという話も聞いている。千葉市で適正配置を話し合っていく基準は、「実施方針」を改定しない限りは、変わらない。

〈木幡委員〉

事務局の回答は、私の認識と同じなので、議事録にもしっかりと残していただきたい。

〈巖倉委員〉

私は、統合を進めた方が良いと思っているが、少人数の学校の方が良いという報道もあり、少人数が悪いわけではない。小規模学校の良いところも活かせる形の統合を検討していければ良いのではないか。期日を決めて結論を出すのではなく、十分に議論し尽くして結論を出したいと思う。

〈益田議長〉

ここで、会長の意見を伺いたい。

〈長岡会長〉

学校をどうするかは、たいへん大きな問題である。幸町2丁目では、各PTAは、次年度の役員体制の中で引き続き話し合うことにした。学区が何度か変更になった過去がある幸町第二小が最も複雑な立場にあるので、特に幸町第二小の保護者の意見を聞く必要があるのではないと思う。幸町1丁目の方は、幸町1丁目だけの会議を持つ必要性はないのだろうか。幸町2丁目は、特に幸町第二小に配慮しながら、2丁目だけで何回か話し合いを重ねないと、まとまった意見にならないだろうし、全体の会議でも意見を言えないのではないかとと思っている。そこで、幸町2丁目だけの会合を何回か行ってから、全体の会議を持つようにしたい。

〈益田議長〉

幸町1丁目を代表して述べるが、1丁目は、以前に1回集まって議論した結果、小学校については、「小規模校よりもむしろ、幸町第三小の大規模校化の方が問題になっているので、そちらの対策をお願いしたい」という意見であった。中学校については、幸町第二中が存続するかどうかということが大きな問題である。子どもたちの将来を考え、中学校を統合し、大勢の中で切磋琢磨できる環境の方が良いという保護者もいるが、幸町第二中を地域からなくしてしまうのはマイナス面が大きいという意見が多い。幸町第二中の先生や校舎が、大規模校化している幸町第三小をカバーするのではないかとも思うし、やはり中学校がないと、地域としての統一性は保たれないと思う。こういったことから、中学校については議論しておらず、幸町第二中は、残ることが前提となっているようである。アンケートを実施しても、幸町第二中は残しておき、幸町第三小と幸町第二中との関係を強化すべきだ、というのが大方の意見である。今後話し合いの機会をもっても、この意見は変わらないだろう。もし話し合うのであれば、幸町第二小に入ってもらわないと、意味がないと思うので、幸町1丁目として、話し合う予定はない。

〈長岡会長〉

幸町2丁目は、幸町第二小を含めて意見を調整していく必要があるということを提案したい。

〈益田議長〉

新年度になるとPTAの役員も替わるし、新体制になってから、話し合う期間もほしいということだったので、今日の協議会では、今後の議論の発端になるような意見を出していただきたい。

〈巖倉委員〉

以前、1回言ったことだが、幸町第三小はすでに子どもたちで一杯なのだから、学区の調整をして、幸町第三小に通っている子どもたちの一部を、幸町第二小に通わせても良いのではないか。アイリス幼稚園には幸町1丁目から来ている子どもたちが少なくないし、幸町第二小に通うことも、それほど抵抗ないのではないか。

〈亀田委員〉

今日まだ幸町第二小の代表者が来ていないのでわからないが、「実施方針」では小学校を2校に、中学校を1校にすることが目標となっている。幸町第三小は大規模校なので現状のままだから、中学校がどこになったとしても、幸町第一小・第二小・第四小の統合は仕方ないと思う。また、中学校を一つに統合すれば、幸町第二小の保護者も納得するだろうが、中学校2校をそのまま残すとなると今のままで良いという考えが強いのではないか。いずれにしても、幸町第二小の保護者の意向を知りたい。

〈篠木委員代理田口氏〉

自分の子どもはすでに卒業してしまっているが、仮に子どもが統合を経験することになったとしても、抵抗なく受け入れられると思う。

〈亀田委員〉

幸町第二中学校区の保護者の意見を聞きたいと思い、幸町第二小、幸町第三小と幸町第二中にアンケートをお願いしたが、幸町第二小は、全体の意見を聞いていないようだ。幸町第一中学校区としては、総会等の場で皆さんの意見を聞くということだろうか。

〈布施委員〉

4月のPTA総会で、これまでの協議会の中で話し合ってきた内容を説明する予定である。

〈川島委員代理高村氏〉

幸町第一小も4月20日のPTA総会で話をすることはできるが、その場で結論は出ないだろう。来年度には方向を決めたいという説明はしているので、保護者の考えはまとめていきたいと思う。

〈稲田委員〉

幸町第四小も、4月20日にあるPTA総会で説明する予定である。

〈亀田委員〉

どの学校でも、説明し、その後、保護者の意見を吸い上げる場をもうけるということだった。役員会だけで決めるのは責任重大なので、たいへんだと思うが、企画していただきたいと思う。また、教育委員会からも、幸町第二小の保護者の皆さんに、「協議会で、みな幸町第二小のことを心配している」ということを伝えていただきたいと思う。

〈長岡会長〉

前回の協議会で、統合校への教員の加配について教育委員会に努力していただいたことは、委員の皆様も理解していると思う。4月で役員も替わり、新体制で前向きに話し合っていくということである。今までの話し合いは決して無駄ではなかったと思う。どの学校でも、4月にはPTA総会があるので、次の委員の方には、今までの協議の内容をきちんと伝えて引き継いでいただきたい。

〈益田議長〉

事務局の方ではスケジュールについてどのように考えているか。

〈事務局〉

さきほど長岡会長が「幸町2丁目だけの会合を何回か行ってから、全体の会議を持つようにしたい」とおっしゃったのは、「幸町2丁目の意見がはっきりしないと、幸町1丁目は話し合っても意味がない」ので、「幸町第二小も含めた、幸町2丁目として協議する場を正式に設け、十分に議論する必要である」という提案と受け取った。そうであるならば、来年度6月頃には、第1回目の協議会を開催できると思うが、今年度のように、委員全員で開催する必要があるのかということになる。まずは、幸町2丁目に関わる委員のみに集まっていただき、分科会を開催し、2丁目に関わる問題について協議した後に、全体会を開催する形が良いと思うのだが、いかがだろうか。

〈長岡会長〉

私は今の事務局の考え方で良いと思う。幸町2丁目に関わる協議会委員で、まずは、幸町2丁目で分科会を開催するのが良いと思う。今までの任意の懇談会とは異なり、協議会委員が集まって、正式に分科会を開催したい。そうしないと、幸町第二小の委員が会議に出づらいう。

〈亀田委員〉

幸町第二小の代表の方がいらっしゃったようなので、今までの経過を伺いたい。

〈山下委員〉

今まで、適正配置について、特に保護者には投げかけていない。何か意見があったら直接自分に言ってほしいと言っている。仮に保護者に一番良いと思う方向を聞けば、今の状態が一番良いという答えが返ってくるだろう。直接あった意見としては、小学校の保護者は「中学校は統合して一つになっても良い」というものがあった。「今は小学校が近くにあるので安心して通わせている。」「学区が広がると、パトロールがたいへんになるという問題等もある。」というのが幸町第二小の保護者の意見だろう。

〈益田議長〉

幸町第三小の保護者代表の阿部さんもいらっしゃったので、意見を伺いたい。

〈阿部委員〉

幸町第三小では、保護者にアンケートをとったが、「第三小は大規模校だし、適正配置にはあまり関係ない」という意識が強く、その後は話題に上らなくなった。ただ、中学校の統合は、関心のある問題のようである。私個人としては、統合には特に、賛成も反対もない。「中学校が統合して、幸町第一中の場所になったら通学距離が遠くなる」という意見もあるが、中学生なのだからそのくらいは大丈夫だろうというのが私の意見である。

〈益田議長〉

統合の問題は、地域だけの問題ではなく、千葉市全体として考えているものである。統合すれば全てよくなるというわけではないだろうから、どのような教育環境にしていけることが一番良いのか、ということがこれからの議論になるだろう。来年度に向けて、まず、協議会委員をどうするか。5月頃になるだろうか。

〈事務局〉

どんなに急いでも、協議会委員を選出するのは、5月くらいまでかかるのではないかなと思う。委員の考え方は、今までと基本的には変わらない。例年であれば、5月～6月に第1回目の協議会開催するところだが、まずは、幸町2丁目に関わる委員の方にのみ集まって協議していただくということであるので、それが6月の初めくらいになると思う。そして、幸町2丁目の協議した結果を踏まえて、その後、全体での協議会を開催するのが良いのではないかな。全く期限を設けないのも、いつまでも全体での話し合いができないので、おおよそ7月の末頃までには、1回目の全体会を開催するようなスケジュールが良いのではないかなと思う。

具体的には、来年度の協議会について、次のようなスケジュールで進めたらいかがだろうか。

- ・5月に新年度の協議会委員の決定をする。
- ・6月から7月の初めに、協議会委員のうち、幸町2丁目に関わる委員により分科会を開催し、その中で、幸町2丁目に関わる問題点について協議し、意見をまとめる。
- ・7月末に、全体の協議会を開催する。

具体的な開催日等については、現協議会会長・副会長（地区連会長及び青少年育成委員会会長）と来年度の地区連会長及び青少年育成委員会会長と事務局（教育委員会）とで調整することとしたい。

〈益田議長〉

教育委員会からも、様々な資料が示されているし、良い方向に話し合いが進めばと思う。

〈事務局〉

保護者の代表の方が一番たいへんだと思うが、保護者へのしっかりとした説明をお願いしたい。

〈木幡委員〉

会長が提案した幸町2丁目の分科会はこの協議会の委員が参加するということだが、それは誰が主催するのか。また、分科会は、この協議会が前提という考え方で良いか。

〈事務局〉

分科会といっても、基本的には、今のこの協議会と同様のものである。ただ、参加する委員が幸町2丁目に関わる方ということである。分科会も、協議会と同様に事務局が案内を出し、発起人の方には参加していただくということによろしいか。そうであれば、教育委員会が事務局をやらせていただく。それまでの間に、保護者代表の方には、今まで協議会で話し合ってきた情報を保護者に提供していただきたい。

〈巖倉委員〉

分科会には、地域の有力者もオブザーバーとして参加できるのか。それとも協議会の委員のみの参加か。地域の意見を聞くということは大事なことでないか。

〈長岡会長〉

分科会も正式な協議会として、協議会の委員で開催したい。その分科会の中で、委員以外の人からも様々な意見を聞くべきではないかという意見が出たら、そのとき、また必要に応じて別個に対応していく。

〈外山委員〉

私は、保護者がどのように考えているかということが先ではないかと思うし、協議会委員が積極的に参加して話し合わなければ、前に進まないだろう。地域の代表者がいくら出てきても仕方がない。保護者を優先すべきである。

〈益田議長〉

委員の皆様には、今まで話し合ってきたことを踏まえて、正確な情報を伝えていただきたい。

来年度は、7月末には全体での協議会を開催するので、その前に、幸町2丁目に関わる委員のみで、分科会を開くというスケジュールである。この提案について異論がなければ、来年度は、7月末を目途に全体の地元代表協議会を開催することとし、その前に、幸町2丁目に関わる問題点について協議し意見をまとめるために、幸町2丁目に関わる委員による分科会を開催することとする。事務局においてもよろしくお願いします。

諸連絡

〈事務局〉

引き続き委員の方にはよろしく願いたい。もし替わる場合には、しっかりと引き継いでいただきたい。来年度はまず、幸町2丁目の方に集まって分科会を開いていただく。

〈布施委員〉

新しい委員に引き継ぐにあたり、事務局の方には忙しい中申し訳ないが、議事録を早く送付していただきたい。議事録で話し合いの内容が分かった方がありがたい。

〈事務局〉

了解した。ここで、委員の皆様には、一言お礼の挨拶を申し上げる。

〈教育総務部企画課主幹〉

本来であれば、課長がご挨拶するところであるが、本日は、所用でどうしても来ることができず、申し訳ない。皆様に十分感謝の意を伝えたいと聞いているので、代わりに私から申し上げます。委員の皆様には、学校適正配置の問題に真正面から取り組んでいただき、感謝している。まだ課題も多く残っており、審議も十分ではないが、適正配置の必要性については、理解が深まってきたと感じている。今年度の協議会は本日で終了し、来年度に引き継ぐので、役員の改選等で協議会委員が替わる団体においては、引き継ぎを十分に行っていただき、来年度の協議がスムーズにいくようお願いしたい。協議会委員ではなくなったとしても、皆様には引き続き、ご理解とご協力を賜りたい。健康に留意され、活躍されることをお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

〈長岡会長〉

7回にわたっての協議会で、委員の皆様には貴重なご意見をいただき、感謝している。教育委員会から提案された「学校適正配置」だが、これは、地域の教育環境を見直し、この地区の教育環境をどうあるべきか考えるチャンスだと前向きに考えてこられたのではないかなと思う。PTAの皆様は、地域との関係が薄かった方もいるかもしれないが、学校と地域との関係を考える良い機会になったのではないかなと思う。子どもは学校だけで育つわけではなく、地域の中で育つものである。地域全体で、学校について、子どもたちの教育について考えていきたい。マイナスに考えても、少しもいいことはないなので、良い方向に変えられるチャンスだという、プラス思考で考えていただきたい。教育委員会からも、統合に伴う教員の加配措置が出された。委員の皆様には「イエス・ウィー・キャン、我々是可以る」という気持ちで取り組んでいただきたい。